

授業科目 比較文化学特論Ⅱ	単位 2単位
授業担当者 菊澤律子	授業期間 後期
授業の題目と概要  手話言語学入門 Introduction to Sign Language Linguistics	
授業の内容と計画  本授業では、言語学の基礎知識がある者を対象に、手話言語学の入門講義を行う。話者（ろう者）コミュニティの言語背景の理解にはじまり、手話の言語としての位置づけ、音声言語との共通点と相違点、コード化の特徴と限界等に着目しながら、手話言語の音と音韻論、形態論、統語論等について具体例を見ながら学ぶ。民博で開催される手話言語学に関する国際ワークショップおよびシンポジウム（10月4、5日）を授業の一環とする。 終了時には、聴講者それぞれが研究対象としている言語（もしくは、なじみのある言語）の特徴をとりあげ、それが音声言語であれば手話言語、手話言語であれば音声言語の対応する特徴と比較し、共通点と相違点を考察、また、その結果に基づいた将来の研究テーマの可能性について論考し、レポートにまとめる。	
使用する参考書、参考論文等  その都度、指示もしくは配布する。	
成績評価基準 出席 50% レポート 50%（和文もしくは英文での提出可）	
その他の留意事項 1. 授業は、菊澤を中心とした複数の講師によるチーム・ティーチングとし、使用言語は、講師により日本語、日本手話（日本語との通訳付）もしくは英語。 2. 後期開講科目であるが、履修登録は前期登録期間中に行うこと。 3. 手話通訳（もしくは同時筆記）が必要な学生は、履修登録時にその旨申し出ること。	